

カモさん、ようこそ。

卷之三

日本で冬を過ごす代表的な渡り鳥「カモ」が、いま、日本中の湖・大きな沼・川・池・海へはるばるシベリアや北アメリカ大陸の繁殖地から、群れをつゝて渡ってきてています。トリは、ふつう結婚の季節になると、羽が美しくなり、青いろわく色になります。

北半球の温帯に位置する日本では、
から初夏がこの季節にあたります。
は、ほかのトリと違つて冬の間が
婚の季節——つまり越冬地である
日本に来てから羽交わりをする
ので、いまうそで、だんだん
美しくなるオスと、地味なメス
の差がはつきりしてきます。

ガモ(カンカモ科)羽交わり期の♂
5cmでカモ類中最小。冬には頭部が栗色で、眼のうしろが暗い緑
になり、体はねずみ色。♀は全身褐色で概斑が全体にあり、下面
美しい。鳴き声は舌口笛のようにビリッピリッと鳴き、
クチューケーと高く低い声。

トモエガモ(ケンカモノ科)羽わり期の♂
40cm。冬は黒色と淡い黄色と緑色の獨特の模様がある。脚
は淡褐色で、小さい黒斑がいくつもある。
♀は全体が褐色で、顔と下面は淡く、くちばしのつけ
根に小さな丸く白い斑がある。鳴き声はココココ、
またはクッククと見える。全体として數は少ない。

ます、その動作は美にいろいろいて、しかも、二つでは娘ひとりにムコハルへ」という場面も、珍らしくあります。ちよつと涙ぐましいほどの光景を見せながら、十一月・十二月と、オスの努力が続きます。皆さんも、双眼鏡を持って、観察にお出かけになりませんか。

逃げる力で逃げないカモも、ヒト次第

ところで、カモの多くは狩獵の対象になつていて、昭和51年度の狩獵期間中に捕獲されたカモ類は83万羽(48羽)環境調査です。一年を通して、千葉県の市川や浦安で鳥をかごで貯めていたカモが、狩獵が始まるとのことで範囲からまつたく見えなくなつてしまつ。そしてそのころから、都内の小さな池などにカモが急に増えました」ということでした。

東京上野の不忍池には、たゞらの野生のカモが来ることで知られています。人が多くなるとカモは食べるもののか心配もありません。こうなるとカモは夜工サさがしに行くとい習慣がなくなり、一日中池を離れなくなります。安寧感とともにすると、狩獵がカモにどんな影響を与えてくるかの、ヒトとトリとのつき合いをかたについて、考えさせられてしまいます。



ヒドリガモ(カンカモ科)羽變わり期の♀
♀は37.5cm。全身黒っぽい褐色で、腹は淡い。
嘴の声は低くクックックとこえる。



ホシハジロ(カンカモノ科)羽交わり期の♂
全長約48.5cm、♀43cm。冬の♂では頭部が赤褐色で、胸は赤味のある黒。背面は淡い灰褐色。
♀は全体が褐色をおび、背と脇は淡い。のど、
(くばし)のもとと、細い過腹線は淡色。
鳴き声はクリックリーという感じ。



トリからのメッセージ 65

●愛鳥レターセットをおわけします 美しい野鳥のカラー・イラスト入り便箋20枚とシール6枚、それに封筒が美麗ケース(タテ31×ヨコ19cm)にセットされています。ご希望の方は代金300円+手数料(2部の場合600円+手数料)で手渡です。